

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要
狭山丘陵グループ	（指定管理者名） 狭山丘陵パートナーズ （団体の概要）西武造園株式会社、NPO法人 NPO birth、一般社団法人 防災教育普及協会、ミズノスポーツサービス株式会社
指定期間	
R5.4.1 ～ R 10.3.31 （5年間）	
2 3 収支(単位:千円)	

狭山公園、狭山・境緑道、八国山緑地、東大和公園、野山北・六道山公園、中藤公園

3 管理運営の概要
狭山丘陵パートナーズでは、これまで里山の持つポテンシャルを引き出しながら、現代社会が抱える様々な課題を解決していく「サステナブルチャレンジ」を進め狭山丘陵の広域的な連携推進や、都民協働による里山風景の保全などの成果をあげてきた。今期は持続可能な社会に貢献する公園づくりに向けた具体的な行動、成果を求める「サステナブルアクション」を、産官学民の協働でさらに進め、東京の宝物である狭山丘陵から「SATOYAMA」を国内外に広く発信し、「未来の東京」の実現、「世界から選ばれる都市」づくりに貢献していく。第4期初年度である令和5年度は、狭山・境緑道が狭山丘陵グループへ新たに加わり、統括公園を狭山公園とし、上記コンセプトを実現する体制を整えた。また、これまでの行動制限が解除され、様々な活動が本格的に再開し沢山の方に公園を楽しんでいただいた。東京都都市公園制度制定150周年事業には全面協力して取り組み年間の様々な事業が幅広く公園のPRにもつながった。

5 管理状況
①維持管理
【1.適切な維持管理を行うための取り組み】 スタッフによる日常巡回、専門家による定期施設点検、樹木一斉点検、ナラ枯れの確認を全公園で実施。パークモニタリングアプリを活用し不具合や危険箇所の早期発見に努め、安全性の確保を行うと共に、計画的な補修・修繕・改修で、予防保全を進めた。 【2.事故、自然災害及び感染症などの社会課題への対策・対処するための取組】 本部と管理所スタッフで園内パトロールを行うパークスキャンや本部による安全パトロール等を活用し安全の確保、品質向上に努めた。また、防災訓練や学習会、初期消火訓練、安全管理講習などを通じて災害時等の対策を進めた。 【3.施設補修、施設改良に関する要望への取組】 様々な形で利用者の意見を収集し、詳細な内容を聞いた上で迅速に現地を確認し対応内容や時期などを明確にして、施設補修を進めた。 【4.丘陵地特性を踏まえた植生管理】 公園ボランティアや地域団体と連携して里山保全の活動を実施した。各部署が連携して調査や保全の計画をたて作業を実施し、ヤナギスズナなど貴重な植物の復活や再生、里山に生息する生きものの保全につなげた。また取組みを掲示やホームページ、ニュースレターでの発信、現地ガイドで普及啓発を実施した。

5 利用者アンケート結果
実施方法：回収、対面、WEB

施設名	回答数	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応
狭山公園	116	4.7	4.8	4.7	4.6	4.8
狭山・境緑道	105	4.4	4.3	4.3	4.3	4.5
八国山緑地	105	4.3	4.3	4.3	4.1	4.4
東大和公園	63	4.3	4.2	4.2	4.2	4.4
野山北・六道山公園	155	4.6	4.4	4.6	4.5	4.7
中藤公園	70	4.2	3.9	4.2	4.2	4.5

○ 利用者数の状況（単位：人）		
施設名	当該年度	分析・評価
狭山公園	538,009	イベント時、春秋の行楽期はにぎわった。酷暑の夏に利用者減。
狭山・境緑道	1,508,256	生活道路としての利用が年間を通じて多かった。
八国山緑地	233,131	ツリーイング、走り方教室などイベントはにぎわった。利用者減にはナラ枯れの影響が考えられる
東大和公園	35,641	天候不順によるイベント中止、ナラ枯れの影響が見られた。団体利用堅調
野山北・六道山公園	173,861	荒天によるイベント中止があったが、里山民家を中心に利用者は多かった
中藤公園	1,782	鉄道会社のウォーキングイベント初開催で利用者増
合 計	2,490,680	



都立狭山・境緑道

所在地:西東京市、小平市、
東村山市、東大和市
開園面積:8.4ha

テーマ みんなでつなぐグリーン&ガーデンロード

<目標と取組方針(狭山・境緑道マネジメントプラン)より>

- ・安全・快適な公園づくりを行う都立公園
- ・水と緑のネットワークを形成する都立公園
- ・独自の魅力づくりに取り組む都立公園
- ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1 意見要望に真摯に対応・快適な緑道づくりを推進

3-③No.33,64,97

年間約200件の意見をPDCAサイクルで対応

越境枝・日照・落葉・不法投棄・防犯・騒音・迷惑行為など、多種多様な要望が寄せられる。これらの要望に対し、安全、利用、生活などの観点から優先順位を立て計画的に順次対応した。

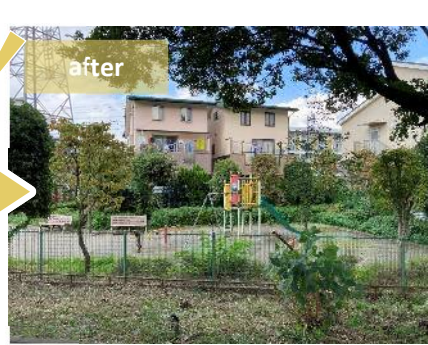
階段改修・利便性と安全性が向上!

■隣接する市立公園へ繋がる階段の老朽化に伴い、改修の要望を受けた。既存の丸太を擬木に取り替え、同時に土系舗装に改修。景観を損なうことなく、高齢者でも利用しやすい階段となった。要望者(近隣住民)からは「とてもきれいになった、すばらしい!」との感謝の声を受けた。



樹木整理・見通し&安全性アップ!

■防犯上の安全性を高めるために見通しを良くしてほしいとの要望を受け、市立公園との境界際の実生木伐採を行った。見通しが大幅に改善され、緑道・市立公園ともに安全性が高まった。住民から「見違えるようにきれいになった」などの感謝の声を受けた。



土留め改修・土砂流出をブロック!

■劣化した土留めからの土砂流出を改善してほしいとの要望を受けたため、土留め用の木材を新調。幅も延長し、土砂をしっかりと押さえることができた。要望者からは「改修していただきありがとうございました!」との感謝の声を受けた。



2 週1回・年間50回以上の全線点検 本部・現場スタッフによる点検(ランドスケープチェック&パークスキャン)

3-③No.7,8

■管理者変更に伴い、前任スタッフと合同で引継ぎを踏まえた踏査を4月に実施。また本部スタッフとともに、景観改善を目的とした「ランドスケープチェック」や、安全性の向上を目的とした「パークスキャン」を実施。当日に上がった改善項目を基に、不要な制札板の撤去や新調(景観改善)や見通し確保のための植栽管理などを実施した。



3 緑道で活動する団体とのパートナーシップ推進

3-②No.4



西東京・狭山境緑道花の会 最終活動日/集合写真を撮影

■管理者変更に伴い、狭山・境緑道で活動する4つの市民団体と顔が見える関係づくりを推進。こだいら観光まちづくり協会が運営する花壇ボランティア活動、小彼岸桜の会の活動などに参加し、地域の方々とのコミュニケーションを積極的に図った。花の会は今年度で解散することとなり、14年間の活動の幕を閉じた。最終活動日には管理者スタッフも同席し、長年の花壇活動に対する感謝を伝えた。

【狭山・境緑道ボランティア】

・西東京・狭山緑道花の会

【連携団体】

・小平リトルシニアリーグ野球協会 ・小彼岸桜の会
・こだいら観光まちづくり協会(花街道部会、斎藤素蔵部会、あじさい部会)



花街道部会



小平リトルシニアリーグ野球協会



小彼岸桜の会

4 緑道ガーデンパートナー制度を継承し運用

3-②No.4,26

■前管理者が確立したガーデンパートナー制度を継承。43件の方へ連絡し、継続確認等を行った。新規活動希望者や活動希望場所の近隣住民との意見調整も実施。無断植栽を排除すること無く、景観づくりのパートナーを増やすことができた。



ガーデンパートナーの花壇

【緑道ガーデンパートナー制度】

住宅や店舗が面している緑道内で、ガーデニングを希望する住民と協定を結び、適正利用を促しながら魅力ある緑道づくりを行うための制度

5 緑道で健康づくり！ノルディックウォーキング教室開催

3-②No.13,37,54



■緑道環境を活かし、日常の健康づくりに活かすノルディックウォーキング教室と、足型測定会を開催。狭山・境緑道沿いに住んでいる住民への健康増進と運動コースとしての魅力を紹介することに貢献！また自信の体をセルフチェックして意識を改善！



ボールの追加方を説明



ボールを使った歩き方を練習

6 順応的な管理で、地域の希少な草地環境を保全

3-③No.29,32,34



■小平市と西東京市に位置する馬の背には、武蔵野の原風景を彷彿とさせる草地環境が残っている。現地では希少な動植物が確認されているため、年4回行われる草刈り作業の前に、毎回自然環境保全部による現地調査及び刈り残す植物のマーキングを実施した。外来植物の駆除も進め、良質な草地環境を維持することができた。



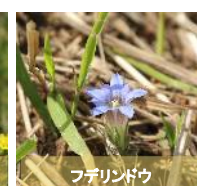
馬の背の土手



上/草刈り作業前にマーキング 下/草刈り作業



ウマノアシガタ



フデリンドウ



シヨウリョウワバッテンボキ



ツリガネニンジン



都立狭山公園

所在地: 東村山市、東大和市
開園面積: 23.5ha

テーマ 狭山丘陵の玄関口 ～人と出会う、自然と出会う、はじめの一步～

＜目標と取組方針(狭山公園マネジメントプランより)＞

- ・地震災害時への対応のため、防災機能を強化・充実した都立公園
- ・安全・快適な公園づくりを行う都立公園
- ・水と緑のネットワークを形成する都立公園
- ・多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園
- ・子どもたちの健やかな成長の場となる都立公園
- ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1

パートナーシップで狭山丘陵をPR！

関係自治体や団体と連携し、都立公園を舞台に2大イベントを開催

3-②No.45



1. 狭山丘陵の魅力発信『SAYAMA HILLS DAY』with 8自治体、3団体、11店舗

狭山丘陵の魅力発信と、協働による保全活用促進を目的に、狭山丘陵フェア実行委員会主催(事務局: 狭山丘陵パートナーズ)の『SAYAMA HILLS DAY』を開催。10回目の開催となる今回は、狭山丘陵に関わる8自治体、3団体、11店舗が狭山公園に集結。自然の魅力や保全に関するコーナーに加え、新たにスポーツ体験や防災学習に関するコーナーも出展した(過去最多の計16コーナー)。来場者数は1,500名を超え、都立狭山公園を舞台に丘陵一体となった普及啓発を推進！



SAYAMA HILLS DAY 全体の様子



スポーツ教室体験



防災ワークショップ

参加者の声

- ・ほのぼのとしていて、子どもと一緒にのんびり色々な体験ができて楽しかった！
- ・初めて公園に来ました！ 色々なコーナーがあって良かったです！ など

主 催: 狭山丘陵フェア実行委員会(狭山丘陵いきものふれあいの里センター、さいたま緑の森博物館、公益財団法人 トトロのふるさと基金、株式会社corot、狭山丘陵パートナーズ)

協 力: 西多摩マウンテンバイク友の会、株式会社Tree to Green、狭山公園友の会

後 援: 東京都、埼玉県、東村山市、東大和市、武蔵村山市、瑞穂町、所沢市、人間市

2. こどもの日の特別イベント『さやまKIDS DAY』with 6自治体



今年度で7回目の開催となる、子ども達のための大型イベント。平成29年度より狭山丘陵に関わる観光振興部署や狭山丘陵パートナーズ等とともに立ち上げた「狭山丘陵観光連携事業推進実行委員会」との共催で実施している。公園ボランティアによるクラフトコーナーやレンジャーガイド、各市町の観光情報コーナーを展開した他、ご当地キャラ5体も集合。親子が公園を楽しみつつ、狭山丘陵の観光PRや、子育てに活用してもらうためのPRの場にもなった。



公園ボランティアのクラフトコーナー



狭山丘陵6自治体の観光情報コーナー



参加者の声

- ・去年も来ましたが子供たちも楽しそうで、大人も楽しめるイベントです
- ・自然に囲まれた中で、子供がのびのびと楽しめました
- ・毎年楽しみにしています など

主 催: 狭山丘陵パートナーズ

共 催: 狭山丘陵観光連携事業推進実行委員会

協 力: 狭山公園友の会(公園ボランティア)

2

スポーツニーズに応えるヘルシーパーク作りを推進！
自然を活かしたスポーツ教室を定期開催

3-②No.37



今年度より、専属のスポーツコーディネーターを配置！全4種類のスポーツ教室を定期的開催(年間計21回)。また、地域で活動するヨガインストラクターを講師に招いた「パークヨガ」も開催。公園の自然を活かし、全世代がスポーツを楽しめるヘルシーパーク作りを推進した。



4 はらっぱスポーツ教室



パークヨガ

3

子ども達が活躍する都立公園づくり
自然を守る子ども達を、狭山公園から続々輩出！3-②No.60
3-③No.25,38,39

都心の学校との連携継続

- 世田谷区内の小学校と連携し、狭山丘陵の代表的な樹木であるコナラの植樹を実施。苗木は八国山緑地産の地域性種苗を活用した。ナラ枯れでコナラが減少する中、学校連携によりコナラ林再生に向けた一歩を踏み出すことができた。
- 中野区内の都立高校と連携し、ススキ原っぱ保全を実施。事前学習として狭山丘陵や狭山公園の概要をレンジャーがオンラインで解説し、後日狭山公園にてススキ原っぱの外来植物や繁茂したクズの蔓取りを行った。



オンライン解説の様子



ススキ原っぱ保全活動後の集合写真



植樹の様子



集合写真



広場の名称候補 検討会議



来園者に投票シール貼ってもらった

キッズレンジャー5期生による新たな取組み

- 狭山公園での環境保全（外来種捕獲や雑木林手入れ等）に加え、新たに東大和公園でのアカマツ実生苗作りや、狭山公園の「太陽の森」内にある広場の名称候補を検討する会議を実施。上がった候補の中かから来園者投票により広場の名称を決定した（『日だまりの丘』に決定）。

4

身近な公園が抱える外来種の問題を普及啓発

3-③No.5,33,39

外来生物の被害状況や保全活動を周知

新たに特定外来生物に指定されたアメリカザリガニやアカミミガメについて、更なる放流被害を抑制するため普及啓発を強化。狭山丘陵の被害状況や保全活動の事例を、小学校やテレビ番組等と連携し情報発信した。



レンジャー作成・普及啓発展示



小学校と連携し作成した展示

情報番組に出演
全国に向け狭山公園の取組みを紹介

5

だれもが利用しやすい公園へ
ユニバーサル化を推進

3-③No.17



- 正門からパークセンター前まで続く点字ブロックを改修。従来よりも剥がれにくく強固な設えに変更した。
- 利用者からの要望を基に、腰掛ベンチを設置。また、東京都整備工事で眺望が良くなった太陽の森にて、キッズレンジャーと共にベンチの設置位置を検討、新設した。



点字ブロックを改修



太陽の森のベンチ

6

カーボンハーフ実現に寄与する
取組み。公園巡回へEV車を導入！

3-③No.4



- 「ゼロエミッション東京」の実現へのアクション「ZEV普及プログラム」に取組み、今年度より巡回車にEV車を導入。走行中の排出ガス0（ゼロ）！



排気ガスゼロ、音も静かな電気自動車で園内巡回



都立八国山緑地

所在地: 東村山市
開園面積: 36.7ha

テーマ 歴史・人・自然をつなげる里の道 ～古を思い、次世代へ伝える～

<目標と取組方針(八国山緑地マネジメントプラン)より>

- ・地震災害時への対応のため、防災機能を強化・充実した都立公園
- ・安全・快適な公園づくりを行う都立公園
- ・水と緑のネットワークを形成する都立公園
- ・東京の水と緑の骨格軸の形成に寄与する都立公園
- ・多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園
- ・子どもたちの健やかな成長の場となる都立公園
- ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1 地域一体となった水辺環境を創出！

3-③No.28,32



ふたつ池の課題 生物多様性低下

- ① 暗い環境に(水辺植物が消失)
- ② 土砂堆積(陸地化)
- ③ 外来種増加(在来種を捕食)

令和2年～4年度までの取組み

- ① 外来種捕獲
- ② 協働による笹刈り
- ③ 生物多様性を高める湿地帯創出
- ④ 捕獲した外来種の堆肥化

令和5年度取組み

- ① ナマズ導入による外来種駆除
- ② 湿地帯の増設

①アメリカザリガニ駆除の新たな手法の確立のためナマズを導入！

■ふたつ池では、湿生植物の再生を目指し令和2年からアメリカザリガニの駆除に取り組んでおり、もんどりや連続捕獲装置などの罠を使用することで、3年間で約6,700個体を駆除。しかし、罠による捕獲は個体の回収や誘引餌の補充等の作業を頻繁に行う必要があり、衛星公園や管理所から離れた池ではボランティア活動も困難なため、長期的に継続するには労力的な負担が大きいことが課題であった

■そこで、隣接する北山公園で活動する市民団体「北山かつぱの会」と協働により2個体のナマズを導入。これによりアメリカザリガニの減少を確認！

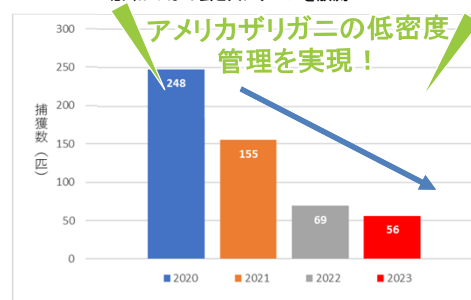
■浅場エリアにおいてミズカマキリやトウキョウダルマガエルを確認。アメリカザリガニの減少により、生物多様性の向上につながった！



北山かつぱの会と共にナマズを放流



北川で捕獲したナマズ



アメリカザリガニ駆除総数 昨年比較



トウキョウダルマガエル、クロスジギンヤンマを確認

②生物多様性を高める湿地帯創出

■水辺植物の発芽を促進するため、昨年度から池周縁部に土留め板を設置し、近隣の小学校と協働で浚渫土を導入して湿地帯を創出。今年度も新たに土留め板を一区画(1m×2m)増設し、近隣の小学校と協働で隣接する湿地からの浚渫土を導入することで、湿生植物が生育できる浅場の創出を行った。

■創出した浅場からはガマやカンガレイなどの湿生植物が発芽し、トウキョウダルマガエルやミズカマキリなど希少な生きものを確認。

前年度創出の湿地で湿生植物が発芽！



昨年度池の縁につくった湿地帯



ミズカマキリ、クロイトトンボなどを確認

今年度増設の湿地今後に期待！



今年は新たに一区画を創出



北山小学校と協働で作業(土を運搬)

2 八国山で初開催！里山環境を活かした多様なアクティビティ

3-② No.13,36,37,41



-専用のロープで木登り体験- 「ツリーイング」初開催！

■子どもから大人まで、幅広い世代が楽しむことができるツリーイングを初めて八国山で実施。電子チケットによる事前申込は満員！家族での参加、八国山緑地を初めて訪れる人が多く、八国山緑地の魅力PR、**利用促進にも貢献**。

参加者の声

- ・木の上からの景色が最高でした！
- ・もっと楽かとも思ったけど、かなり難しくてすごく楽しかったです。またやりたいです。



インストラクターの指導のもと、専用のロープを使って木登り体験



-自然の中で体を動かす- ヘルシープログラム初開催！

■幼児向け、小学生向け、大人向けなど年齢層別にプログラムを実施。幼児は楽しく遊びながら体を動かす「はらっぱスポーツ教室」「親子スポーツ教室」、小学生は運動会で速く走れるようになるための「走り方教室」、大人は健康増進のための「ウォーキング教室」「ノルディックウォーキング教室」を実施！

参加者の声

- ・斜面を活かした走る練習がとても良かった
- ・効率的な歩き方を意識したことなく、勉強になった！



親子スポーツ教室



走り方教室



ウォーキング教室

3 公園を核に社会課題へ対応！地域との取り組み

3-③ No.13,14,15,36,41



-公園の自然を活かした子育て支援-

子育て支援施設と連携した親子向けプログラム

■東村山市子育て総合支援施設「ころころの森」との共催による親子向け自然体験プログラムを実施、27名が参加！レンジャーによるガイドや八国山緑地の活用、安全確認を指定管理者が担当し、広報、受付等を共催団体が担当。役割分担をすることで、互いに効率的・効果的なイベント運営を行うことができた。



子育て支援施設と連携した親子向けプログラム・レンジャーが自然を紹介

-地域防災力の向上に貢献-

地域の自治会と防災設備の組立て訓練

■近隣自治会32名を対象に、八国山西入り口広場の防災トイレやかまどベンチの組立て方を紹介。公園管理者以外にも、有事の際に設備を稼働させることができる人員を確保することができた。



近隣自治会を対象とした防災トイレの組立て講習の様子・レンジャーが解説

■避難所に指定されている近隣小学校の「避難所運営連絡会」に出席し、地域の方々と顔が見える関係作りを推進。八国山や狭山公園の防災機能についても共有することができた。

■『関東大震災100年 東京都・東村山市合同総合防災訓練』へ各機関との連携による出展を実施。パートナーズ構成団体が監修した防災クイズを展示。公園から地域防災の意識向上に向け啓発することができた。



東京都西部公園緑地事務所のブースにてオンライン防災クイズ「ちょぼットの防災道場(地しん・つなみの巻)」を展示



都立東大和公園

所在地：東大和市
開園面積：18.6ha

テーマ 雑木林博物館 ～雑木林のすばらしさを感じ、学び、育む～

＜目標と取組方針（東大和公園マネジメントプラン）より＞

- ・安全・快適な公園づくりを行う都立公園
- ・水と緑のネットワークを形成する都立公園
- ・東京の水と緑の骨格軸の形成に寄与する都立公園
- ・多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園
- ・子どもたちの健やかな成長の場となる都立公園
- ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1 東大和公園のシンボル・アカマツ林再生の取組み

3-③No.27,32



アカマツに関する課題

- ① 松枯れ病による枯死
- ② 日照不足による幼木の成長不良、実生の発芽障害

令和1～4年度までの取組み

- ① 保全計画作成・地域の合意形成
- ② アカマツ広場・ハルゼミの丘の伐採、地掻き、下草刈り、実生調査
- ③ 関係団体とのアカマツ保全に関する情報交換

令和5年度取組み

- ① アカマツ広場の下草刈り、実生調査
- ② ハルゼミの丘の実生調査
- ③ 松枯れ防止の樹幹注入
- ④ キッズレンジャーのポット苗作り

① アカマツ広場での下草刈り、実生調査

■ 草刈り時に実生をマーキングし、手刈りにより丁寧に管理。60本の実生が順調に成長。

② ハルゼミの丘の実生調査

■ アカマツ再生計画（平成31年度作成）に基づき、アカマツの成木が多数残るハルゼミの丘にて周辺樹木の伐採等の整備を開始。600本の実生が順調に成長。

③ 松枯れ防止の樹幹注入

■ アカマツの成木40本に、松枯れ予防剤を樹幹注入。

④ キッズレンジャーのポット苗作り

■ 狭山公園キッズレンジャーにより混み合っている実生を間引き、ポット苗を作成。アカマツ再生に活用する予定。



① アカマツ広場の下草刈り、実生調査



② ハルゼミの丘の実生調査



③ 松枯れ防止の樹幹注入



④ キッズレンジャーのポット苗作り

2 都民協働のチカラで里山環境を保全

3-②No.4

3-③No.26,27,33



■ 地域住民や公園ボランティアとともに作成した「森の遊び場管理計画」（平成29年度作成）に基づき、協働による雑木林や湿地の管理を継続。「ちょこっとボランティア」を2回開催。絶滅危惧種を含む、地域ならではの自然環境を協働事業により保全することができた。



湿地の保全作業



ミゾコウシュ 絶滅危惧Ⅱ類 8

3 改訂版東京都レッドデータブックに東大和公園の取組掲載

3-③No.32

■ 東京都で絶滅のおそれのある野生生物について解説した東京都レッドデータブックー本土版ー野改修に際し、狭山丘陵パートナーズで協力。保全計画の作成や希少種に配慮した草刈り計画の立案・実施、公園ボランティア・市民団体等との協働での保全活動の中で育まれている成果が評価された。



ハルゼミの項目で東大和公園が紹介された

4 東大和公園が地域の子どもたちの学びの場に！ 地元小学生による環境学習＆保全の取組み

3-②No.12



地域の自然を学び、伝え、守る活動を実施

(東大和市立第一小学校 5年生80名)

令和2年度に連携した地元小学校より再び相談を受け、東大和公園での環境学習・保全活動プログラムを年間2回に渡り実施。

■初回はレンジャーと一緒に園内を散策し、班ごとにタブレットで動植物を撮影。後日、写真を活用した「東大和公園の生きもの展示」を作成してもらった。学校内と狭山公園内に掲示され、学校では他学年の生徒に、公園では多くの来園者に向け東大和公園の自然紹介をすることができた。

■2回目の活動では落ち葉かきを体験。林床の落ち葉をかくことで植物の発芽を促すとともに、腐葉土を作ることでカトムシの繁殖環境を創出することができた。



初回の生きもの撮影&展示



林床植物保全体験（落ち葉かき）



5 利用者の声を活かし、安全・安心・長寿命化を推進！

3-③No.17



■利用者からの声（なんとなく入りにくい、利用している人が少ないなど）の声を受け、

①外周道路からの見通しを改善するため、正門広場外縁の植栽を大々的に整理。

②木製ベンチの汚れを改善。高圧洗浄により清潔感がUPし、利用頻度が増加！



今までの正門広場入口



見通しを確保して公園の印象が明るく



公園入口のベンチに高圧洗浄を実施



きれいになって利用しやすいベンチへ

6 東京都都市公園制度制定150周年記念事業を盛り上げる！ テレビ番組や上野公園イベントなどで東大和公園の魅力を発信！

3-②No.12.28

ALL parks

■東京都都市公園制度制定150周年記念事業に、全公園で全面的に協力。特に東京都の情報番組「東京サイト」では積極的に自然情報や保全活動の取組み紹介を提案し、2日間に渡り東大和公園が紹介された。また上野恩賜公園にて開催された150周年祭にブースを出展し、狭山丘陵の都立公園情報をPR。多くの方に紹介することができた。



東京サイトでの紹介



9



上野公園150周年祭にブース出展



都立野山北・六道山公園

所在地: 武蔵村山市、
瑞穂町
開園面積: 204ha

テーマ なつかしいようで未来につながる公園
～豊かな自然を活かし、みんなで学び、育てる～

<目標と取組方針(野山北・六道山公園マネジメントプラン)より>

- ・水と緑のネットワークを形成する都立公園
- ・東京の水と緑の骨格軸の形成に寄与する都立公園
- ・多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園
- ・子どもたちの健やかな成長の場となる都立公園
- ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1 希少な生きものあふれる環境づくり

3-③No.32,37,38



課題

- ① 土砂の流入による湿地の消失
- ② トウキョウサンショウウオの減少
- ③ 草地環境の減少

これまでの取組み

- ① 令和5年3月に湿地の掘削を実施
- ② トウキョウサンショウウオの保全
- ③ 草地環境の創出

令和5年度の取組み

- ① 湿地再生プロジェクトの推進
- ② トウキョウサンショウウオの保全
- ③ キツネ保全計画の作成

① 東京都絶滅種「ヤナギスブタ」の確認！ New!!

■ 湿地再生の成果として、水生昆虫や両生類の利用、ミズオオバコやオモダカなど8種類の湿生植物を確認！
その中で、東京都では絶滅したとされていた植物「ヤナギスブタ」が26年ぶりに復活！

■ ヤナギスブタの復活について東京・読売新聞や水草研究会誌に掲載！ 都立牧野標本館にヤナギスブタを含む3種の標本を収蔵。都内での希少種保全に大きく貢献することができた。

■ 失われつつある湿地の環境や生きものを再生するため「湿地再生プロジェクト」を推進していく。



掘削により、およそ105㎡の湿地を再生



26年ぶりに確認された「ヤナギスブタ」



② トウキョウサンショウウオ保全の新たな取組み

■ 本種は長年の保全活動により個体数が回復していたが、アライグマ(外来生物)の捕食被害により再び減少。そこで、新たな取組みとしてアライグマの捕獲に加え、侵入を防ぐ防護柵の設置を実施！

■ 狭山丘陵関係団体が集まり環境保全について協議する『狭山丘陵広域連絡会』にて、トウキョウサンショウウオ保全に関する情報交換を実施。狭山丘陵全体で保全に取り組む体制を確立することができた。



設置したアライグマ進入防止柵(左)、確認された卵囊(右)



③ 安定した繁殖地確立に向け、キツネ保管理計画を作成！

■ 園内でアカギツネの安定的な繁殖地を確立するため、アカギツネが選好する開けた草地環境づくりを平成18年度から継続して実施。

■ 利用状況を確認するため、痕跡(糞や巣穴)の確認や自動撮影カメラを設置。その結果、園内で初めての繁殖状況を確認！

■ キツネの保全に向け、丘陵全体での生息状況や園内の目撃情報の整理を実施したうえ、**キツネ保管理計画を作成！**
種の保全を図るだけでなく、丘陵全体の多様な生態系の保全に繋がった。



アカギツネ

繁殖に適した草地環境を維持



園内の目撃情報を整理(左)、キツネ保管理計画(右)

2 新たな里山の風景づくりスタート！

3-2 No.8,24,26



ボランティアと課題を共有、次の一歩へ！

- コロナ期間中の活動休止などでボランティアの登録人数が減少、知識や技術の継承が課題に。
- 新しい仲間を増やすために新たな企画が誕生。ステップアップのための講習を実施。
- パークコーディネーターがボランティアの提案に柔軟に対応。専門家や他部署との連携・調整を進め活動を推進！



雑木林



お茶隊



里の竹細工



わら細工



田んぼ



里山ガーデン



里山民家事務所完成・ワークショップで宮野入の将来像共有

里山の自然や文化を守る、17種の公園ボランティア活動にのべ3,700人以上が参加。

学校や企業も含めると年間約5,400人が活動した。次年度の公園ボランティアには302人が登録！

3 里山環境を活かした多様なプログラムの展開

3-2 No.24,51



- 里山の自然や文化を体験し学ぶレンジャープログラムを年間8種類実施、のべ750人以上が参加。
- 里山保全への興味を深め、公園ボランティアへ登録した参加者も！



いきものふれあい田んぼ

里山キッズ探検隊
(秘密基地作り)

ナイトプログラム



里山発見プログラム

近隣の高齢者福祉センターと連携したガイド



4 里山再生に向けた維持管理

3-2 No.27
3-3 No.1,8,26

ALL parks

■調査・計画

園路沿い約100haの調査を実施。

合計10,259本の樹木をプロット！

内訳 全枯:2,478本 半枯:7,781本 健全:693本



園路沿い全域を調査



伐採し安全確保

■安全確保・伐採

優先度を決定。利用頻度に応じた園路封鎖の実施

主要園路は伐採し安全確保！

■情報共有・被害跡地の管理

ナラ枯れ被害跡地の林床モデルを予測。

狭山丘陵広域連絡会で5種類の再生モデルを共有
再生モデル

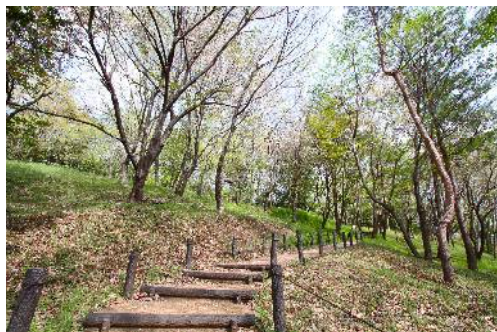
- ・若いコナラ林形成 ・混合林
- ・過去の植生を踏まえアカマツやハンノキ林
- ・草地環境創出 ・遷移に任せる



狭山丘陵広域連絡会でナラ枯れ跡地の共有



混合林と草地創出を合わせた管理で順調に実生育成



都立中藤公園

所在地: 武蔵村山市
開園面積: 4.3ha

テーマ 狭山丘陵の緑の連続性を確保しつつ里山の歴史を引き継いでいく場

<目標と取組方針(中藤公園マネジメントプランより)>

- ・安全・快適な公園づくりを行う都立公園
- ・水と緑のネットワークを形成する都立公園
- ・東京の水と緑の骨格軸の形成に寄与する都立公園
- ・自然とふれあえる場となる都立公園
- ・子どもたちの健やかな成長の場となる都立公園
- ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1 WEBサイトリニューアル! SNS強化で新しい層へアプローチ

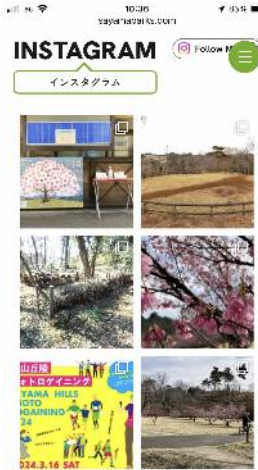
3-②No.10

ALL
parks

新たな公園利用者の獲得のため、公園ロゴやホームページデザインを40年を超える多摩エリア密着型のローカルメディア『けやき出版』とブランディングを検討して一新。20~40代の若者や親子層の新たな利用を狙った。また、パークブランディングMTGを行ってInstagramでの発信を本格化！スマートフォン用ページも完成。**New!!**



公園ロゴや写真を一新！中藤公園ホームページ画面



SNSで公園の様子を随時発信！スマートフォン画面



公園で配布しているレンジャーミニ図鑑など紙媒体もDXを進め、ダウンロード可能に！

2 自治体や団体と連携し、公園の認知度をアップ！

3-②No.10,13,18,28



■「アクセスがわかりづらい」の課題に武蔵村山市と協力し、観光スポット「軽便鉄道トンネル跡」付近などに公園へのアクセスを示した簡易看板を8箇所設置 **New!!**



中藤公園へのアクセスとなる軽便鉄道トンネル前にも掲示

■西武鉄道ウォーキングイベントへ公園を紹介し、初めてウォーキングイベント開催地になり多数の方が参加



中藤公園内を通って軽便鉄道跡を進むウォーキングイベントへ協力！

■狭山丘陵全体の魅力発信で6市町と連携した4回目となるフォトロゲイニングイベントを実施。ファミリー、友人など約90名が参加！



チェックポイント、桜の丘で写真を撮って得点を獲得！

3 ランドスケープチェックにより見どころを創出

3-②No.14

本部スタッフと景観改善の『ランドスケープチェック』を行い、利用者の方に楽しんでもらう景観づくりの取組を実施。



ランドスケープチェックで見どころ創出を検討



風景を改善し、眺望を創出



4 Webと対面による公園の魅力発信を推進

3-②No.67-70



現地掲示のQRコードで幅広い公園情報を発信

■スマートフォンで手軽に読み取れるQRコードから公園SNSへ誘導。中藤公園のおすすめスポットや、自然の見どころ、保全の取り組みなど、QRコードから幅広い情報提供に繋がった



掲示ポスター



QRコードのリンク先ページ

現地プログラムで魅力を体感

■パークレンジャーによるガイドウォーク開催。縄文時代の中藤エリアの様子や、貯水池建設などの歴史から、公園で見られる自然まで幅広く紹介

■ボランティア活動を気軽に体験できる「ちょこっとボランティア」実施。ナラ枯れ後の樹林再生に向けてコナラの実生35本を採取！



中藤公園ガイドウォーク



ちょこっとボランティア

5 生物多様性のポテンシャル分析を行い維持管理へ反映！

3-③No.32,33,34～47



■自動撮影カメラを用いた哺乳類の生息状況調査を継続して実施。両生類や植物調査を行い中藤公園のポテンシャルを把握！

■パクモニアプリに生きものの情報を集約し、希少種マップを作成。草刈りや樹林伐採などの維持管理計画に反映！



中藤公園の希少種マップ



確認されたホンダタヌキ



保全対象のアイザンズミレ



哺乳類の生息状況調査の様子



保全対象のアカマツの実生

収支状況

3 収支(単位:千円)				
	令和5年度	令和4年度	令和3年度	公園別支出額
項目	金額	金額	金額	
収入 計	637,372	624,268	424,925	狭山公園・狭山・境緑道・八国山緑地・ 東大和公園:(税抜)261,150 野山北・六道山公園・中藤公園:(税 抜)318,279
内 指定管理料	637,372	624,268	424,925	
内 利用料金				
内 その他収入				
支出 計	637,372	624,268	424,925	
収支差	0	0	0	